

今週の見頃写真

7月7日編集

○ツキノワグマ再来

7月6日（月）夕方4時、ビジターセンター内から窓越しに外を眺めると、動く黒い物体・ツキノワグマが視界に飛び込んできました。また成獣のツキノワグマが出没しました。道路際のアリを捕食しています。最初の発見場所は、猪根平多目的広場、一か所に固執することなく、場所を変え、アリを物色、捕食しながら、ゆっくりとビジターセンター前、樹木園、北電記念館前駐車場を通過していきます。道路を横切ったとき、一般車が偶然通過、警笛を鳴らすと一瞬怯みましたが、またゆっくりとアリを物色しながら、有峰ダムがある有峰湖方面へと消えていきました。我々にも視線を向けましたが、決して物怖じすることなく、ここは我々の住処であると誇示しているようにも感じました。この間、30分が経過していました。匂い付け（マーキング）がされているのでしょうか？ ほぼ同じルートを通って往来しているようです。やはり、我々職員も熊との遭遇には細心の注意が必要です。もちろん、来館者には、クマを目撃した場合の対処方法など、その留意点について十分説明を行うよう徹底したいと考えています。



一心不乱にアリ捕食中のツキノワグマ



降雨の中こちらの様子を伺うツキノワグマ



降雨の中アリ物色中のツキノワグマ



降雨の中アリ物色中のツキノワグマ

追伸

今後も季節ごとの熊の生態について観察、記録していきます。



降雨の中アリ捕食中のツキノワグマ



一心不乱にアリ捕食中のツキノワグマ

○アキアカネ（トンボ科アカネ属）再来！

6月30日猪根平で今年初めてアキアカネを発見しました。越夏のために有峰にやってきたのです。ここで秋まで過ごします。「夕焼け小焼けの赤とんぼ、負われて見たのはいつの日か」で始まる「赤とんぼ」の歌で既知の赤とんぼは、ナツアカネ、アキアカネ、ミヤマアカネなどのアカネトンボの仲間の総称です。アカネトンボの仲間は1年1世代といって、1年でその一生を終えます。暑さに強くないことから平地と高地の長距離移動を行います。春、湿地や水田で卵からふ化し、幼虫（ヤゴ）となってミジンコ等を活発に捕食して成長します。初夏の夜に羽化。羽化後、暑さを避けるために、すぐに標高の高い山地へ移動。涼しい山地で生活して十分成熟し、体色もオレンジ色から赤色に変化していきます。平地が涼しくなる10月ごろに高地から平地へ移動し、群れを成して生活しつつ、湿地や水田などに産卵し、12月上旬頃までにその一生を終えます。これがアキアカネの生活史の概略です。最近、越夏の原因が、性の成熟を抑制するためとも考えられています。



ススキの枯れ枝で静止中のアキアカネ



ススキの枯れ枝で静止中のアキアカネ

○アズマヒキガエル（日本固有亜種）

【分類】無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属

6月30日、冷夕谷キャンプ場の外付けトイレの中で発見しました。餌は主に地表昆虫と考えられています。トイレ内に生息するカマドウマでも捕食しに来たのでしょうか？ 雌雄判別不明です。有峰では5月初旬が繁殖期と思われますが、この時期に成体を観察できるのは珍しいと思います。



地面に静止中のアズマヒキガエル

（冷夕谷キャンプ場にて撮影）



地面に静止中のアズマヒキガエル

（冷夕谷キャンプ場にて撮影）



地面に静止中のアズマヒキガエル
(冷タ谷キャンプ場にて撮影)